

第4回

## リコーダーの魅力 ～楽しく演奏（1）～

### 学習のねらい

この「楽しく演奏」のシリーズでは、皆さんの身近にある楽器を取り上げます。実際に楽器に触って、それぞれの楽器が持つ多彩な音色、表現の多様性などを味わって、楽しんでほしいと思います。今回はリコーダーです。リコーダーは初心者でもすぐに音を出せる親しみやすい楽器で、時には華やかに、時には素朴にと、いろいろな音色を奏でてくれます。リコーダーの魅力を味わいましょう。



講師  
末石忠史

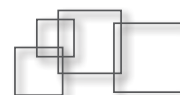
### リコーダーの種類と音の高さとの関係について学ぶ

リコーダーには大きさの違う種類がいくつかあります。それぞれのリコーダーを聴くとソプラノ・リコーダー、アルト・リコーダー、テナー・リコーダー、バス・リコーダーと違った音の高さであることがわかります。ソプラノ・リコーダーと比べると、テナー・リコーダーはちょうど2倍の長さに作られ、テナー・リコーダーはソプラノ・リコーダーに比べて1オクターブ低い音が出ます。それと同じ関係がアルト・リコーダーとバス・リコーダーでもなりたちます。

このように管の長さが2倍になると、1オクターブ低い音が出るというのが、管楽器の基本的な仕組みです。大きさの違う複数のリコーダーで演奏すると、ハーモニーを作ることができ、アンサンブルを楽しむことができます。

### リコーダーの音色や表現の豊かさを味わう

今回ゲストのリコーダー奏者の水内さんに「ペツォールトのメヌエット」を演奏していただきます。「ペツォールトのメヌエット」は鍵盤楽器のための曲ですが、今回はソプラノ・リコーダーとアルト・リコーダーの二重奏で演奏しています。



## リコーダーの基本的な奏法を身に付けて、 音色や奏法の特徴を生かした演奏をしよう

リコーダーを演奏するときには自然な音が出せるように腹式呼吸を意識しましょう。腹式呼吸を身に付けることで息のコントロールがしやすくなります。また、リコーダーを演奏するときには腕や手に力を入れ過ぎないようにしましょう。

リコーダーには4つの奏法があります。「ノン・レガート奏法」「テヌート(ポルタート)奏法」「レガート奏法」「スタッカート奏法」です。それぞれの演法と音楽表現の特徴をつかみ、それらを生かした演奏しましょう。音楽表現を豊かにすることができます。その際、舌を動かして息を出したり止めたりして行う「タンギング」という技術が必要になります。

番組では「ふるさと」を2つのパートに分かれて演奏します。皆さんがお持ちの楽器を使って、演奏しやすいほうのパートを番組の演奏に合わせて演奏してみてください。

### ♪ 今回取り上げる曲 ♪♪♪

- 「イギリスのナイチンゲール」：作曲 ヤン・ヤーコプ・ファン・エイク
- 「ガリヤルド」：作曲 バード
- 「ペツォールトのメヌエット」：作曲 C. ペツォールト
- 「ふるさと故郷」：作曲 岡野貞一 作詞 高野辰之 編曲 源田俊一郎